

Trichoderma atroviride の生産する抗インフルエンザウイルス物質の構造および活性
○金杉 聡¹, 山本 剛², 和泉 直行¹, 増間 碌郎^{1,2}, 野中 健一², 永井 隆之^{1,2},
山田 陽城^{1,2}, 塩見 和朗^{1,2}, 大村 智²(¹北里大院感染制御, ²北里大生命研)

【目的】

2009 年春から続く新型インフルエンザウイルスの世界的感染拡大は大きな問題であり、新型ウイルスに対する新規薬剤の開発は急務である。我々は微生物代謝産物を探索源とし、新しい作用機構、化学構造を持つ抗インフルエンザウイルス物質の探索を行ってきた。

昨年度本年会にて、糸状菌培養液より新規抗インフルエンザウイルス物質 wickerol A, B について報告した。本年会では、同糸状菌培養液から単離した別の抗インフルエンザウイルス物質の構造決定、抗インフルエンザウイルス活性について解析を行った結果を報告する。

【方法】

MDCK 細胞にインフルエンザウイルス (A/PR/8/34) を感染させ、試料を添加し、感染細胞の生死をクリスタルバイオレット法により検定することで *in vitro* 抗インフルエンザウイルス活性を測定した。

【結果および考察】

糸状菌 *Trichoderma atroviride* FKI-3849 株培養液より harziandione およびその新規類縁体を取得した。Harziandione は wickerol 類と同様ジテルペン化合物であり、その抗インフルエンザウイルス活性および細胞毒性は、wickerol B と同程度であった。抗ウイルス作用メカニズムなどとあわせて報告する。